

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 学校法人吉岡教育学園 千駄ヶ谷日本語学校

1 事業の趣旨・目的

金沢区は三浦半島の東側に位置し、外国人登録者数はおよそ 2,500 名(平成 23 年1月末現在)であり、人口約 21 万人のおよそ 1.2%を占めていて、現在、複数の日本語教室が運営されている。平成22年11月にグループ校である千駄ヶ谷日本語教育研究所が、主に新人のボランティアを対象とした導入研修を単発の研修会形式で依頼され好評を得たことから、当時実施していた文化庁受託の東久留米市でのボランティアを対象とした実践的研修を金沢区でも実施してほしいと要請された。

そこで、これまで当千駄ヶ谷日本語教育研究所グループが築いてきた実績やノウハウと、平成 19 年度の文化庁委嘱事業「対話を中心とした交流活動のカリキュラム」作成、平成 20 年度、21 年度、22 年度に埼玉県久喜市、東京都東村山市、東京都東久留米市で行ったボランティアを対象とした実践的研修を通じて得られた地域の日本語教室のニーズに関する情報を活かし、日本語支援を自律的に考え、実行できる人材の育成を目指す。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月18日 18:00～ 19:00	千駄ヶ谷 日本語学校	石井恵理子 石丸玲子 伊東 祐郎 内田美和子 梶村 勝利 小山 紀子 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則	・事業概要説明 ・長期研修案の説明 ・今後のスケジュール ・その他	・事業計画書に沿った事業概要の説明 ・研修目標と内容について ・研修の個別内容とスケジュールについて ・今後の運営委員会開催等のスケジュールについて
1月13日	千駄ヶ谷 日本語学校	石井恵理子 石丸玲子	・研修終了報告と総括	・全体的実施状況報告 ・受講生アンケート内容の報

18:00～ 19:00		伊東 祐郎 内田美和子 小山 紀子 齋藤ひろみ 新山 忠和 吉岡 正毅 吉川 正則		告 ・研修内容の総括と評価 ・今後の課題の明確化
-----------------	--	---	--	--------------------------------

【写真】



3 講座の内容について

(1) 講座名

おしゃべり型日本語交流活動ボランティア育成講座

(2) 目標

日本語支援を自律的に考え、実践できる人材の育成

(3) 受講者の総数 44 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

国籍…日本 43 名、中国 1 名

(4) 開催時間数(回数) 40 時間 (15 回)

講義 29.3 時間 (11 回) 実習 10.7 時間 (4 回)

(5) 参加対象者の要件

金沢国際交流ラウンジ日本語教室及び周辺地域で活動する日本語ボランティア経験者
全日程を受講できる方

(6) 受講者の募集方法

金沢国際交流ラウンジ日本語教室作成のチラシを配布して受講者を募集した。

(チラシ別添を参照のこと)

(7) 会場

「いきいきセンター金沢」多目的研修室

(8) 使用した教材・リソース

・平成 19 年度文化庁委嘱『対話を中心とした交流活動のカリキュラム』

学校法人吉岡教育学園

・教授者が作成するレジュメ

(9) 講座内容

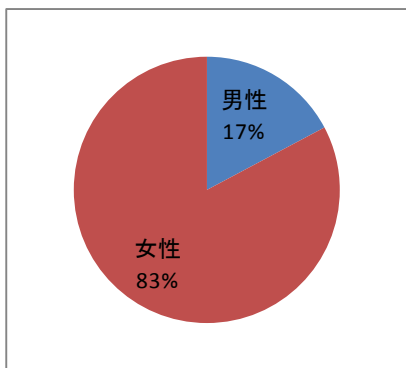
日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月8日 18:00～20:40	おしゃべり型交流活動の ためのスキル1～おしゃ べりで学ぶとは?～	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部長 吉川正則	39名
7月15日 18:00～20:40	今、求められるボランティ アとは?	東京外国語大学教授 伊東祐郎	32名
7月22日 18:00～20:40	おしゃべり型交流活動の ためのスキル2 ～ことば のルール①表現～	学校法人吉岡教育学園 教育研究企画部部長 新山忠和	36名
7月29日 18:00～20:40	おしゃべり型交流活動の ためのスキル3 ～ことば のルール②音～	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教育部部長 小山紀子	38名
8月5日 18:00～20:40	おしゃべりで学ぼう1 ～ おしゃべりカリキュラムの 使い方(生活編2)～	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教育部部長 小山紀子	39名
8月26日 18:00～20:40	おしゃべりで学ぼう2 ～ わかりやすく伝える(生活 編6)～	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部長 吉川正則	25名
9月2日 18:00～20:40	おしゃべりで学ぼう3 ～ おしゃべり実践に向けて (お付き合い編4)～*実 習活動の狙い・進行予定 と実習1に向けた準備	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部講師 滝恵子	31名

9月9日 18:00～20:40	実習1・内省活動1	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部长 吉川正則	34名
9月16日 18:00～20:40	助詞の習得から考える日 本語の文法	東京外国語大学教授 伊東祐郎	32名
9月30日 18:00～20:40	実習2・内省活動2	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部講師 滝恵子	30名
10月7日 18:00～20:40	おしゃべりで学ぼう4 ～ 「学びにつなげる」ことの 整理と意識化	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部講師 滝恵子	24名
10月14日 18:00～20:40	おしゃべりで学ぼう5 ～ 言葉のツール・情報のツ ールの活用法～	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教育部部长 小山紀子	30名
10月21日 18:00～20:40	おしゃべりで学ぼう6 ～ これまでの総括と実習3 への意識付け・準備～	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部长 吉川正則	30名
11月18日 18:00～20:40	実習3・内省活動3	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部講師 滝恵子	26名
12月2日 18:00～20:40	実習総括・修了式	千駄ヶ谷日本語教育研究所 日本語教師養成部部长 吉川正則	29名

(10) 講座の評価

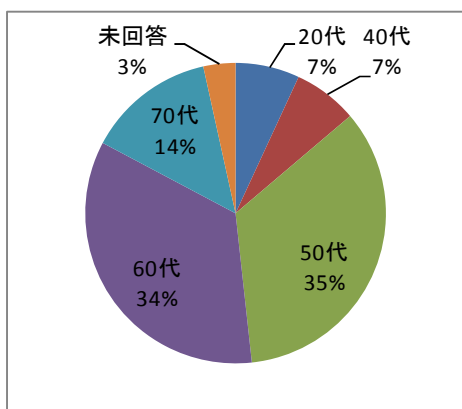
① 受講生に対するアンケート (回答数:最終日参加者 29 名)

性別



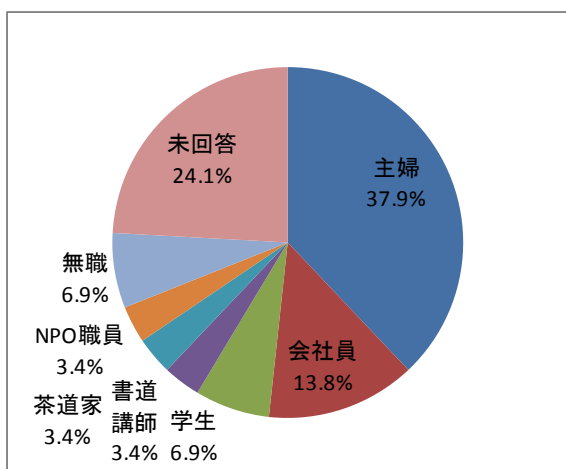
男性	5	17%
女性	24	83%

年齢



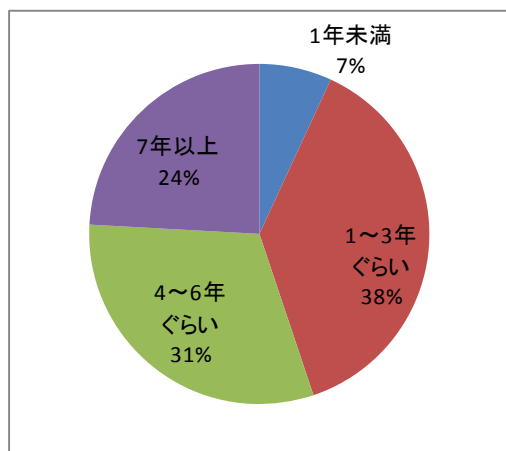
20代	2	7%
40代	2	7%
50代	10	35%
60代	10	34%
70代	4	14%
未回答	1	3%

職業



主婦	11	37.9%
会社員	4	13.8%
学生	2	6.9%
書道講師	1	3.4%
茶道家	1	3.4%
NPO職員	1	3.4%
無職	2	6.9%
未回答	7	24.1%

地域在住外国人に対する支援・交流活動歴



1年未満	2	7%
1～3年ぐらい	11	38%
4～6年ぐらい	9	31%
7年以上	7	24%

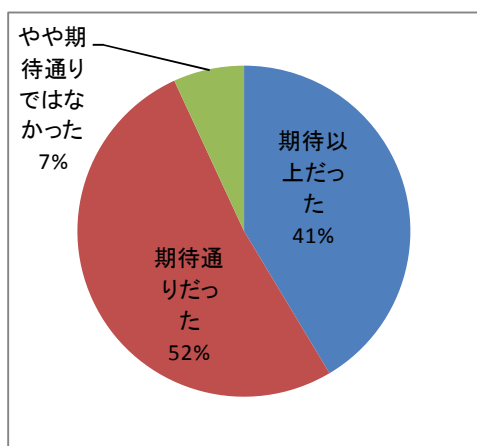
なぜこの研修を受けようと思ったのか。

- おしゃべり型日本語交流について今まで学んだことがなかったため
- 自分のレベルアップ
- 日本語ボランティアを続けるにあたって、なにか得るものがあるかどうか…と思い受けました。
- ボランティアとして日本語支援をしていく上にとっても興味があった。ためになる講座だと思った。昨年も大変よかったので、ぜひ参加したいと思った。
- 直接法が最も学習者にわかりやすい教授法であると思い、改めて勉強する必要性を感じた結果です。
- 教え始めて日が浅く、自分の技術、知識が足りないのを実感しているの。
- おしゃべりを軸とする教え方の講座を受けたことがなく、興味を持ったため。
- 自分自身の日本語指導能力を高めたいと思いました。
- 「みんなの日本語」を中心としたマンネリ化した勉強方法しか提供できない自分の学習方法をブラッシュアップしたかったから。
- 教科書偏重主義により、自由にしゃべれる授業がよいと思い。かつ充実した教師陣。
- よりブラッシュアップしたいと思ったから。
- 以前ホストファミリーをしたり、日本に来る留学生のサポートをしていました。
- 自分のスキルを高めたい。
- 文型中心の教え方を習っていたので、おしゃべりを学習につなげる方法を知りたかった。
- ラウンジの今年の研修であったから、“おしゃべり型”というタイトルも魅力的でした。
- これまで学んだ(大学)ことを実践で応用できなくて(忘れていているところもあり)、

実力をつけたいなと思って受講しました。

- 外国人とのコミュニケーションがうまくとれる指導法を学びたかった。
- 今までに2回ブラッシュアップ研修を受けましたが、今回の「おしゃべり型交流」をお聞きしたかった。
- スキルアップのため
- 同じ市域内に在住されている方に少しでも日本に慣れていただけるよう、お手伝いしたいと思いました。
- 教科書を使う教授法とが異なる手法が学べるから。
- 自分自身を今以上に高めたいと思ったから。
- 外国人との交流をできるだけスムーズに行うため。
- 日本語ボランティアを続けていきたいので、さらに技術を学びたかった。
- おしゃべり型、日本語交流活動を勉強したかった。
- 自分のレベルアップ、ブラッシュアップのため
- おしゃべり型について知りたかった。
- ボランティア教室の研修だったので。
- 日本語を勉強するためにこの研修を受けました。

研修で取り上げた内容について



期待以上だった	12	41%
期待通りだった	15	52%
やや期待通りではなかった	2	7%

今回の研修で最も印象に残ったこと

- 「日本語教育＝相互に学び、教え合う実践的なコミュニケーション活動」ということです。
- i+1 そしてその難しさ。
- 今までできる限り話してコミュニケーションをしてきたので、今回の研修で改めてこの形で進めていこうと確信しました。

- 「教える教わる」の定義が逆転している。この点を肝に銘じて日本語支援をしていくひつようがある。学習者から教えられることは多い。
- 工夫次第で交流テーマを見つけ出せるということがわかりました。
- 実習に来てくださった学習者のいきいきとした表情が印象的でした。
- 教え過ぎず、対等な立場で共に学ぶ。
- エデュケーション
- 「おしゃべり型」の学習方法の難しさと簡単さ。
- i+1. しゃべりばかりではなく、さらにレベルを上げる技術があること。
- おしゃべり実践は非常に印象に残り、今後大いに活用したい。
- ”おしゃべり型”の理論的な裏付け、全体的に印象に残っています。
- おしゃべりの大切さ、教育の変化（今は一方通行じゃなく、対等の関係になって学ぶ）*おしゃべりの大切さは理解できたが、全体の中でおしゃべりに掛ける時間が多すぎたのでは？
- 外国人にとって日本語を学習した時の充実感、ボランティアと意思疎通ができたときということ。
- 品詞から文法を考える、メモを取ることを心がける、毎回のわかったことを書いたこと
- 学習ではなく習得（おしゃべり型）やさしい言葉を使って短い文で話す。言葉だけでなく、いろいろな方法（ツール）を使ってコミュニケーションをする。上手な聞き役になる。相手のことを聞くには、まず「わたしのこと」を話す。先入観、固定観念（国対国ではなく）を捨て、相手の視点に立って考える。
- グループに入って学んだ外国人が喜んだこと。
- 日本語を使ってのコミュニケーションが、文法重視でなくてもいい。相互交流になればいい。ということ。
- おしゃべり型はお互い対等に教え合える。
- かまえず！こらず！おごらず！学習者の目線に寄り添いながらの気持ちがとても大切なのだと深く思いました。
- おしゃべり型学習の実習
- 再度文法の復習が学習でき、大変良かった。毎回楽しく、実習案も i+1 も、これからの支援に役立てていきたい。
- 習得というメソッドはとてもよいと思った。
- ①i+1 ②一方的に教えるのではなく、自分も学ぶ姿勢を忘れない。
- 相互理解、コミュニケーションの大切さ（そのバックには日本語についての理解が必要）
- i+1 を心がける。
- 学習者が学習の主体であることが、おしゃべり型ではできるし、支援者も一緒に

学び合うことが大切。

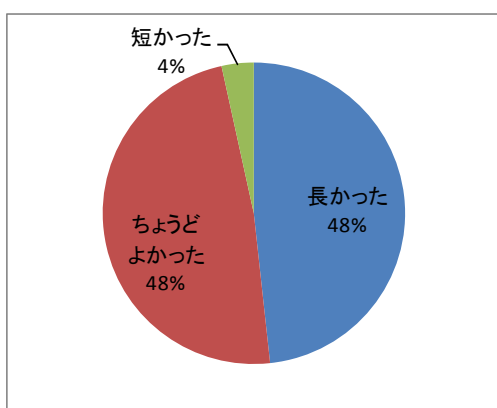
- 会話を楽しみながら学習していく技術を少し学んだような気がします。
- 学習者と意見を交換するときに楽しかったです。

今回の研修で学んだことをどう活かしたいか

- 学習者の方に（教科書だけにしぼられず）
- 教科書にとらわれずに、学習者の必要とする部分をその都度対応していけるように心掛けたいです。
- i+1 や適するツールを探す努力をしないではいけないと思います。
- 今後ラフなカリキュラムを作成して活動を進めていきたいと思う。
- 学習者とのコミュニケーションの取り方を考え、身近なことから見出していけるような気がします。
- 一回の学習時間のうち、10～20分くらいはおしゃべり型を取り入れたい。
- まずは学習者が楽しく、たくさん話せるように工夫することが大切だと思います。
- 双方向ということを念頭に、学習者の真に為になって言うように誠実に、努力
- 積極的におしゃべり型を取り入れて、学習に役立てたいと思います。
- 学習者と一緒になっていろいろな方面から日本語を伝授したい。
- ボランティアをする際、外国人の友達と話す際には今回学んだ議論を頭の隅においておきたい。
- これから授業でおしゃべり中心にベースにして自然に他の文法などに入っていければと思います。
- 日本語を教えるのではなく、コミュニケーションを取ろうという態度でのぞみたい。
- 状況にフレキシブルに対応したい。（テキスト：おしゃべり+書くこと→半々くらいで）
- 学習者と一緒になっていろいろな方面から日本語を伝授したい。お互いに学び合うことが大切であり、対等でおしゃべりしていきたい。今回の研修でたくさんの引出しができました。その一つ一つの引出しを開けるのが楽しみです。
- なるべく会話を引き出すように、指導時に工夫していく。
- 学習レベルによって、いろいろなおしゃべりの時間を取り入れ、相互理解を深めたい。
- 実際の授業で。
- いつも通り心をこめて学習者に接していきたいと思います。
- ある程度基礎のできた学習者への対応に活かしたい。
- 自分なりに15回分を振り返り、支援者に合うように考えて進めていきたい。
- 教えることは自分が学ぶことであり、おおいに活用したいです。

- どの学習者にあたるかわからず、準備できないことが多いが、常に話題を提供できるようにアンテナを立てて意識して生活しようと思った。
- 日本語教室のボランティアで活用していきたいと思っています。
- 学習時間の終わり、さようならを言う時に満足してもらえるように努力をする。学習者との信頼を深くできるように、いつも心がける。
- こども達の支援をしているので、なかなか難しいが、少しずつ実践してみたい。
- 相手の語学能力に合わせて話を引き出し、ゆっくりと日本語を話す。

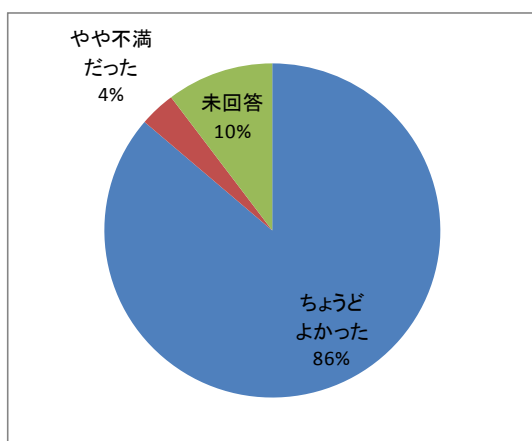
研修全体の時間の長さ（全15回）について



長かった	14	48%
ちょうどよかった	14	48%
短かった	1	1%

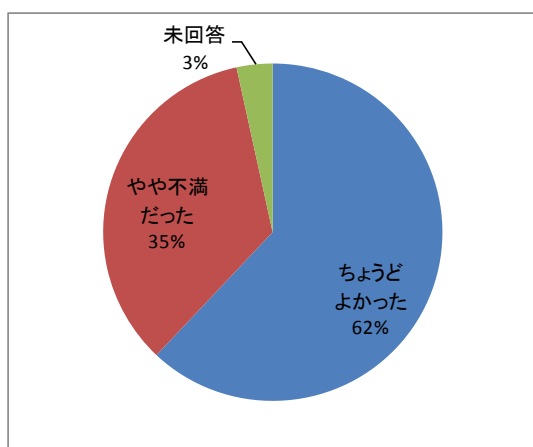
研修の曜日設定（金曜日）、時間設定（18：00～20：40）について

曜日



ちょうどよかった	25	86%
やや不満だった	1	4%
未回答	3	10%

時間



ちょうどよかった	18	62%
やや不満だった	10	35%
未回答	1	3%

今後、どのようなことを学んでみたいか。

- 相互理解を深めるコミュニケーションの取り方
- 重要ポイント（例：テ形）の実践的な教授法
- 中級以上の難しい文法の教え方。
- カリキュラム作成、教材作成など
- 双方向の勉強法に考え直す必要性、学習者からのファシリテーター（引出し）（エデュケーション）をやるやり方を学びたいです。
- おしゃべり型以外にも様々な工夫をしておられるボランティアグループがあると思うので、伺ってみたい。
- 何事も時代とともに新しい知識を身につけていくことが大切だと思います。よろしくお願いします。
- おしゃべり型で i+1 でレベルを上げて、自分の日本語教授法を実践したい。
- 学習者が何をまなびたいのか。それを第一に把握して、それに合わせて指導する。学習者の、日本の滞在期間、目的によって教える内容が異なる。
- 日本語の文法をもう少し深く知りたいです。
- 初心者レベルの方の学習
- 日本語検定を受験する学習者への応援のしかた（ポイントを押さえない）
- 今回と同じような研修
- 中級者への取り組み方（日本語能力試験対策など）
- 臨機応変に対応できるよう自分を高めていく努力をしたいと思います。
- 全くの初心者への対応
- 自分自身が出来る限りレベルアップしていくためにも、文法をはじめ今回のようなケースももう少し掘り下げたものを学び、支援者との文化や色々な違いの背景

を考え、相互理解ができるように考えていきたい。

- 外国人のバックグラウンドについて学んでいきたい。
- 外国人が知りたい日本の文化。
- 私はまだ日本語の知識、理解が不足しているので、その積み上げ…です！
- 漢字圏以外の人へ漢字を教える方法。
- 子どもたちへのおしゃべり型実践について。
- 日本語をほとんどわからない生徒への効果的な指導法及び、宿題や授業以外での家での学びの指導法などを知りたいです。

② 実施主体からの研修内容結果評価

今回の事業は、平成 19 年度当実施主体が作成した『対話を中心とした交流カリキュラム』（平成19年度文化庁委嘱）を使用し、過年度埼玉県久喜市、東京都東村山市、東京都東久留米市において実施した「ボランティアを対象とした実践的長期研修」の経験も踏まえて行ったものである。

今回の長期研修も、その目的は、このカリキュラムを運用できる人材を育成することにあった。それは、これまでと同様、生活者としての外国人に対する日本語支援において、中心となるべき支援内容は文型（文法）ではなく、おしゃべりから得られる情報や人間関係であるという考え方に基づいている。

地域の日本語教室は、その地域に生活者として住む外国人と地域住民との交流の場であり、その交流を通して互いに良好な人間関係を築き、共に住みやすい地域社会を作り上げるきっかけとなる場である。したがって、地域の日本語教室の日本語支援を考えると、いかに交流を促進させるかという点から支援内容を組み立てていく必要がある。しかしながら、地域の日本語教育では、文型（文法）を中心とした教科書を主教材として用いているところもあり、日本語支援者の中には文型（文法）を教えることが日本語の支援だと考えている人も多い。そこで、今回の研修でも、文型を中心に教えていく方法の技術や能力を高めることではなく、交流の促進を目的とした「おしゃべりで学ぶ」という新たな支援方法を紹介し、その実践能力の育成を目指した。

日本語支援をおしゃべり中心にしても、話すためにはどうしても言語表現についての知識が必要になってくる。ある話題で話す場合、その話題を語るために必要な表現、あるいはその話題を語る時に知っていると便利な表現がある。それらを必要に応じて、外国人の方々に伝達し身につけてもらえば、ある話題についてより深く詳しく語るができるようになる。そうなれば、外国人の方々は、さらに多くの必要情報を得たり、その話題を通して支援者とより深く交流をしたりすることができる。そこで、研修前半の内容は、「おしゃべり型交流活動のためのスキル」と題して、文法や音声、会話の指導についての要諦を押さえた上で、「おしゃべりで学ぼう」というタイトルで、『対話を中心とした交流カリキュラム』（平成

19年度文化庁委嘱)をテキストとし研修を行った。おしゃべりを中心とした日本語支援の方法は、ボランティア経験の長短にかかわらず受講者にとっては新たな日本語の支援方法であった。

今年度も、昨年と同様、研修中途に実習を設けた。それは、中途の実習で受講者の気付きを促し、内発的動機を後半の研修の前向きな受講に繋げるという狙いからであった。

ある話題でおしゃべりをするという活動そのものは、受講者にとって日常でも普通に行っていることなので、ここでもおしゃべりを中心とした新たな日本語支援の方法は、受講者に抵抗無く受け入れられた。しかしながら、「おしゃべりで学ぼう」の最初の段階においては、支援者がしゃべることに夢中になり、おしゃべりの相手の日本語のレベルを考えずに難しいことばを使ってしまうなど、相手への配慮に欠けるおしゃべりも散見された。また、言語表現の伝達については、おしゃべり活動の中に取り入れられることが少なかった。

それは、中途で行われた実習でも見られたことで、話題を語る時に必要な表現についての支援を行ったり、誤用に対する支援を行ったりする際の手法とその程度が研修後半の課題となった。ここで、当初期待した通りの内発的動機が生まれ、研修後半の「おしゃべりで学ぼう」においては、受講者同士の模擬実習においても、言語的支援や話題の展開を意識した上で実践しようとする動きが目立った。そして、研修最後の2回の実習でそれぞれの受講者なりの実践と振り返りが見られた。

このように、本研修においては、交流の促進を目的とした「おしゃべりで学ぶ」という新たな支援方法を紹介し、その実践能力の育成を目指したが、中途に実習を配置したことで、特に研修後半、受講者の意識の変化と「学び」の場面が多々見られた。「おしゃべり」を「学び」に変えていくことの意義についての再認識と、文法項目を「教える」ではなく、相手が必要としていることを効果的に補っていくアプローチについて実践ができるレベルに導くという成果があっただけに、研修に参加した受講者には、本研修で学んだことを是非地域の日本語支援の発展に役立てていただきたい。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

現地で日本語支援活動に携わっている運営委員を通して、その後の実践状況をリサーチし、必要に応じて適宜フォローアップを試みていきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

平成 19 年度、当事業主体が文化庁より委嘱された『対話を中心とした交流活動のカリキュラム』を本事業に活用した。

② 研修後の人材活用

本事業の受講者は、今後も横浜市金沢区を中心とする地域で、外国人への日本語支援に継続的に携わることになっている。

(12) 今後の課題

本事業の受講者には、地域における日本語支援の経験が3年未満と比較的浅いボランティアも4割含まれていたため、本事業で習得されたことが円滑に実践され、地域の日本語支援に活用されるよう、当事業主体が地域の日本語教室に対して今後も継続して支援していくことが今後の課題である。

以 上